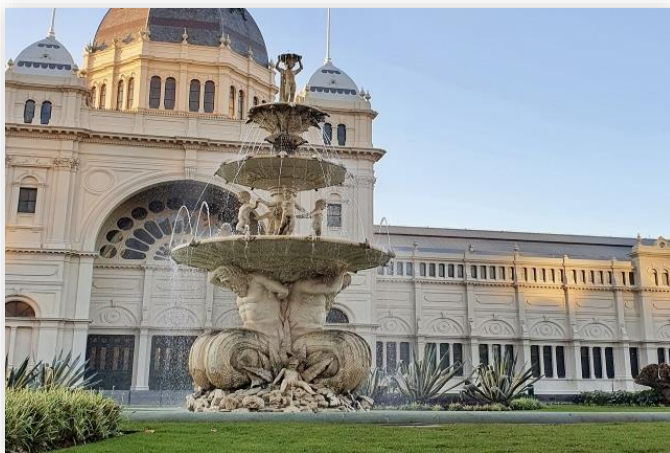


オーストラリア・ヴィクトリア州の世界遺産 『王立展示館とカールトン庭園』 ～英国植民地時代を語る建築物～



オーストラリア・ヴィクトリア州メルボルンに在る『王立展示館とカールトン庭園』は、オーストラリア初の西洋建築として知られています。ビザンツ様式、ロマネスク様式、ルネサンス様式など、様々な建築様式を融合したその姿は、これまで影響を受けてきた西洋文明とのつながりを象徴しているかのようです。

王立展示館は、メルボルン国際博覧会で使用されるために、1880年に建造されました。その後、1888年には「オーストラリア植民地生誕百周年記念国際博覧会」が開催されるなど、オーストラリアにとって歴史的価値を持つ建造物です。また、王立展示館を囲むようにカールトン庭園が広がっています。カールトン庭園の面積は約26ヘクタールで、東京ドーム約5.5個分に相当します。園芸が盛んなオーストラリアの技術が詰まった庭園は、色鮮やか、かつ、繊細であり、王立展示館の美しさを際立たせています。

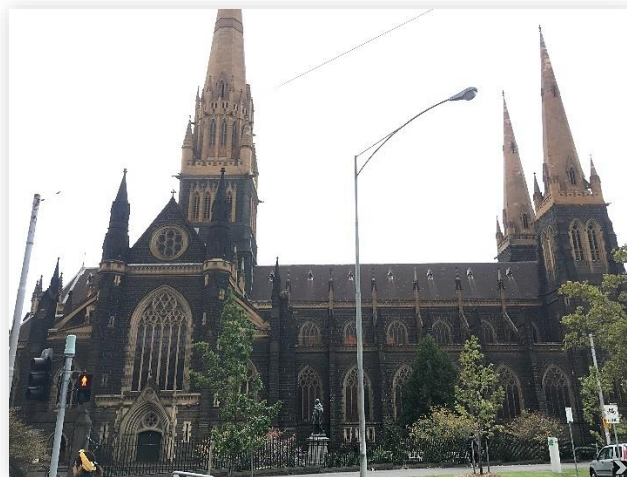


設計を手掛けたのは、英国コーンウォール出身の建築家ジョセフ・リードです。18世紀後半、オーストラリアは英国の植民地となり、人口増加が加速しました。その勢いは建築にも影響を与え、人口が増加した都市

では、人々の欲求を満たすために、豪華な建築物が求められるようになりました。そのようなニーズを意識し、ヴィクトリア建築の基礎を築いたのが、1852 年に入植したジョセフ・リードでした。王立展示館の内部は非常に広い設計になっており、丸天井や大広間、装飾が豪華絢爛ごうかけんらんです。



また、メルボルンに在る代表的な建築物の多くは、同時代に建てられたものです。ジョセフ・リードが入植する前年の 1851 年、ヴィクトリア州で金が発見されたことにより、“ゴールド・ラッシュ”が始まりました。多くの移民が押し寄せ、人口が急増した結果、1865 年頃にはメルボルンがオーストラリア最大の都市へと変貌を遂げました。人口増加と同時に“建築ブーム”も始まり、メルボルンを代表とする建築物の多くが、この時期に建設されることとなります。『王立展示館とカールトン庭園』以外にも、ヴィクトリア州議事堂、ヴィクトリア州立図書館(こちらもジョセフ・リードの設計)、メルボルン大学、聖パトリック大聖堂などが、代表的な建築物です。



聖パトリック大聖堂:1858 年から約 80 年かけて建設された、オーストラリア最大のカトリック教会

英国植民地化、ゴールド・ラッシュ、建築ブームと、目まぐるしく変わる時代の中で、メルボルンはオーストラリアにおける建築の最先端都市へと発展していきました。そのような時代背景を語るのが、2004 年に世

界遺産に登録された『王立展示館とカールトン庭園』です。

また、メルボルンには英国植民地時代を彷彿とさせる歴史的建造物が多く存在します。市内探索の際には、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



■フリンダース・ストリート駅

1854年に開業したこの駅は、オーストラリア国内初の駅です。利用者の増加に対応するため、建て替えが行われ、フレンチ・ルネサンス様式を取り入れた設計で、1909年に完成しました。



■ロイヤル・アーケード

1870年に開業したこのアーケードは、メルボルンで最初のアーケードであり、国内で最も長いショッピング・ストリートです。伝説上の巨人であるゴグとマゴグの巨大な像が両脇にあしらわれた時計は、古代ギリシャ神話の時を司る神、「クロノス」を象徴しています。



■ヴィクトリア州議事堂

1856年に開業された州議事堂です。段階的な工事を経て、ギリシャ神殿をイメージさせるコリント様式の姿となりました。メルボルンに首都機能が設置されてから、キャンベラに移転されるまで、この州議事堂でオーストラリア連邦議会が開かれていました。

今回は、『王立展示館とカールトン庭園』と、英国植民地時代に関連した建築物について、ご紹介しました。歴史的な建造物と近代建築の混ざり合うメルボルンは、今日も多くの人々を魅了していることでしょう。

世界遺産アカデミー認定講師 若狭 かな恵